

時点における本町の平成二十五年産米の作付配分は、地域間調整等の結果、昨年実績の九ha増となる一、四三九haを確保できたところであり、また、地域農業の再生と集落機能の維持を目標として、国が今年度から進めている「人・農地プラン」は、今年十二月末を目標に計画を策定する予定であります。

### ■畜産振興

昨年十月に長崎県で開催された全国和牛能力共進会の厳しい結果を踏まえ、県、JA、和牛改良組合などの関係機関と連携し、引き続き、系統改良の推進、繁殖基盤の再構築を図ってまいります。

また、JA雲南肥育センターの統廃合については、今後関係市町とJAで構成する雲南農業振興協議会が昨年策定した、「新たな奥出雲和牛振興計画」により、対応していく考えであります。

現在、貸工場の事業化については、別の企業と交渉を進めており、この度、事業費の組み替えと予算の繰り越しについて、補正計上したところであり、引き続き、雇用の創出と定住対策に努めてまいります。

### ■子育て支援

「安心して子どもを産み、育てることのできる環境づくり」は最重要課題として、多子世帯の児童・生徒の医療費無料化や保育料の軽減、予防接種の助成、出産祝金の支給などを行ってまいりました。



▲奥出雲町オロチの深山きこりプロジェクト

### ■特産振興

第三セクターである有限会社奥出雲椎茸では、高品質な「しいたけ」を生産しており、スーパー等販売店での評価も高く、市場等での単価も全国平均より高く推移しております。

しかしながら、リーマンショック後の景気悪化に加え、福島原発事故に伴う「原木のいたけ」に対する風評被害の影響等による市場価格の低迷が続く、厳しい経営状況にありま

### ■医療、福祉

町の充実を図る観点から、多福祉会へ幼児教育充実事業費の支援を引き続き行い、安定的な保育士の確保を図るとともに、職員研修への支援を行います。

より、「奥出雲しいたけ」のブランド堅持に努めてまいりる考えであります。

### ■国営開発農地

国営開発農地では、平成十八年度に耕作放棄地などの低利用農地が約九十haありましたが、農外参入企業等による利用集積などにより、年々その解消が図られ、今年度末の低利用農地は三十九haとなり、この六年間で五十一haが解消されました。

今後、耕作放棄地の再生整備補助金等を活用し、新規農業参入者への農地利用集積を働きかけるとともに、生産者の支援・利用促進を図ってまいります。

また、安心して生活できる町を目指して、テレビ電話を活用した見守り事業、交通サポート事業、助け合い除雪、住宅進入路整備事業、高齢者生活ホーム、買い物支援体制などの「高齢者生活支援事業」に積極的に取り組んでまいります。



▲テレビ電話を使った買い物支援

### ■有害鳥獣対策 林業

今年度のイノシシの捕獲頭数は、前年度に比べて半減し、農作物被害等についても減少傾向にあります。来年度も国の交付金を活用した電気防護柵の設置などの被害防止対策や有害鳥獣駆除など、必要な対策を講じてまいります。

### ■観光振興

島根県が進めてきた「神々の国しまね」プロジェクトも最終年となりましたが、今年度は、出雲大社で六十年に一度といわれる「平成の大遷宮」が斉行され、多くの観光客が見込まれています。

特に今年度は、吊り橋を含む鬼の舌震のバリアフリー遊歩道が完成するほか、国道三二四号のおろちループ周辺には、澄川喜一先生のデザインによる「おろちの彫刻」が完成いたします。

来年度は、さらに高齢者交通サポート事業の充実を図ってまいります。

位置づけ、今後の観光振興に、大いに活用してまいります。

### ■商工業振興

個人経営者や中小企業を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあります。

そのほか、企業誘致については、今年度、教社と貸工場

### ■国民健康保険事業

一月一日現在、本町の国保加入世帯数は一、九四七世帯、被保険者数三、三八三人で、加入世帯数では町全体の約三十九%、被保険者数で約二三・五%と、依然多くの方が加入されています。

### ■教育の充実

奥出雲町教育委員会事務局組織について、これまで子育て支援室は生涯学習課の居室として設置してまいりましたが、